

ご挨拶

植村 泰夫

本年4月27日の第11回総会で、植木研介先生の御逝去によって空席になっておりました代表幹事に就任しました植村泰夫(元文学研究科教員)です。どうぞよろしくお願いいたします。

私はインドネシア史研究を専門として研究教育に従事してきましたが、現職時代最後の数年間は大学院重点化の動きの中で文学研究科に誕生した俯瞰的な「総合人間学」講座に所属し、中国人留学生の教育・研究指導にも従事してきました。定年退職後、それまではほぼ毎日、広島から西条まで通っていた生活から突然に「毎日が日曜」状態となり、しばらくは呆然としておりましたが、幸いなことに文学研究科で様々な活動をご一緒した植木先生から電話でお誘いをいただいて、2012年に広島大学マスタース広島に入会しました。この間、2015年度から2019年度まで総務担当の幹事を務めることになり、会員総会や例会、各種の教育支援活動など、従来からの活動の企画や準備に従事するとともに、ミニ懇話会といった新しい企画も始めました。様々な書類や郵便物などを準備する時には、努めて他の幹事の方々にお手伝いをお願いし、未来創造センターにいただきました部屋で共同作業をおこなうよう心がけましたが、多くの方々にお越しいただき、その場ではあれやこれやの会話が交わされ、自分にはない考え方を知ることができ、楽しく過ごすことができました。

しかし、ご承知のようにこの頃からコロナが大流行し、このようなマスタース広島の活動は極めて困難になりました。2020年8月に会の創立10周年を迎えるに当たり、幹事会では植木代表幹事(当時)が中心となって「広島における平和教育」に関するシンポジウム開催を計画し、学外の関係者にも広く呼びかけて、「広島」という広大を越えた幅広い枠組みの中で「平和」を考える場を作ることを目指しました。これが実現しておれば、広大の「平和科目」を広島で行われてきた「平和学習」との関連で位置付けでき、われわれの活動の中で画期的な意義を持ったと思われませんが、残念ながらコロナ禍の中で取り止めせざるを得ませんでした。結局、10周年記念事業としては、2020年11月に会報の10周年記念特別号刊行にとどまりました。

その後も、日常的活動は引き続き困難でした。最も大切な会員総会は、最初に触れましたように第11回総会を本年4月27日に開催しましたが、前回の第10回総会が2019年5月25日でしたので、実に5年ぶりのことでした。しかも、今後の活動に向けての再出発点として実施し、例年のように懇親会を一緒に行う形が取れなかったせいもあるのでしょうか、盛会とはいえなかったのは残念でした。またほぼ毎年実施してきた例会は、2019年11月の「海田町旧千葉家住宅他史跡見学」から開かれておりません。会報の発行は2019年6月25日の22号、そして上述の特別号以降は途絶えており、ようやくこのたび本24号を4年ぶりにお送りすることになりました。2019年に始まったミニ懇話会も、2回目を2020年1月11日に開催(『お味噌の効能』、元原医研・渡邊敦光会員)して以来、5年ほど途絶えており、ようやく本年7月20日に大杉会員の話題提供で第3回目を開催することができました。

そうした状況下でもこの間、教育支援活動だけは会員の諸先生方の御尽力によって、粘り強く続けられました。特に2011年に始まった平和科目授業では、「平和と人間C」(霞キャンパス)、「平和と人間D」(東千田キャンパス、夜間)を、会員外の先生方のご協力をも得て提供し、今年度も無事に終えることができ、現在は来年度の計画を検討しつつあります。また2017年から大学院向けの「健康生活科学」なる

授業を開設しましたが、大学院改組などとの関係で現在は医学研究科の方に担当していただくことになりました。同年には大学院共通授業科目「学問と社会」を東千田キャンパス(夜間)に開設し 2023 年度まで実施しましたが、講義受講状況の変化、講師陣の高齢化等の諸事情により 2024 年度から中止され、現在に至っております。この他、広大国際交流センター(現・森戸国際高等教育学院)が窓口で 2019 年まで 10 年間続いた「日韓共同理工系学部留学生予備教育」の一部科目(物理, 生物)を 2011 年度から 2019 年度まで担当、また NHK 文化センターやテレビ新広島(TSS)文化大学「一般教養講座」に講師を派遣するなどの活動も行ってきました。

現在、困難な時期はようやく過ぎようとしており、マスターズ広島はすべての活動を再開しようとしております。私ども執行部としての幹事会はほぼ 2 ヶ月に一度のペースで対面の会議を開くなどして、活動の具体化に努力しております。ただ、こうした活動を将来に向けて継続していくためには新入会員の増加が不可欠です。残念なことにここ何年間か、会員数にはほとんど増加が見られませんでした。うれしいことに今年久しぶりに複数名の新入会員を迎えることができました。会員の皆様には、新入会員勧誘も含めた諸活動に、ぜひご協力いただきたいと心から願っております。とは言いましても、われわれは基本的に老人の集まりですので、お体のご都合を勘案してご参加ください。どうぞよろしくお願いいたします。

2024 年 9 月